



平成29年 3月15日

- 2〜4面 松川町公民館研究集会
- 5面 みんなで仲良く
- 6面 資料館だより
- 7面 スポーツ・情報
- 8面 まつかわ大学
- 8面 俳句・子どもの詩
- 8面 長野県信濃美術館移動展の感想
- 8面 視点・ペンペン草



まつかわ百景 ⑨7

「歴史の流れの中に立つ」神護原神社

神護原神社には、明治35年に書かれた古文書があり、松川町文化財アドバイザーの酒井幸則先生に、解説解説をお願いしてありました。準備が整い宮司、名子区会、神社総代の有志で、1月18日に名子地区公民館にて見聞会を行いました。有線での告知もあり、当日は約70人の区民の皆様が参加し、悠久のひと時のロマンを堪能しました。

古文書は、明治末に全国的に行われた神社統合に先立つ調査内容的な色合いが濃いものでした。

古文書の伝説によれば、神護原神社と諏訪大社との関係は、平安時代から現在迄脈々と続き、又、分霊を受ける三要件(若宮様、御射山様、御社宮司様の存在)を整えている神社である事、以前は社の入口は東南に向かい(現在は北西)丘下に御手洗池有(現在は鴨池と呼ぶ)などと記載されていました。

主張

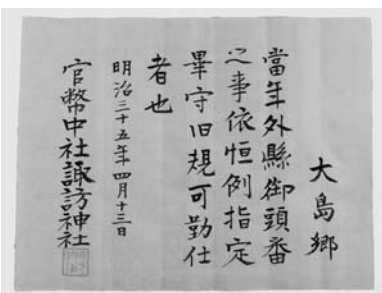
神護原神社の遙かなるロマンの旅

この神社は古くは「健御名方社」「諏訪大明神」などと呼ばれていたが明治41年に現在の「神護原神社」となりました。

昭和22年に名子氏居館跡、名子城跡と共に、県の「史跡保存指定地」に指定され、現在に至っています。

社前には石の大鳥居、渡辺国武筆の社碑、近くには飯田城主、脇坂安元公の歌碑や江戸時代の名子村出身の高僧、海侃大僧より寄付された石橋等もあり、ぶらり散策し、歴史のロマンを肌で感じる飽きない場所です。

中平 文夫



明治時代の御符

「えみりあ」を形に

えみりあ～ 第54回公民館研究集会 2月26日(日) えみりあホール



新しい中央公民館「えみりあ」が昨年11月にオープンし、大勢の人たちに利用されています。今年の公民館研究集会では、えみりあのあるさらなる活用をはじめ、公民館活動の見直し、住民の皆さんの願いや希望を形にするためにはどうすればよいのかなどを考えました。

研究集会は、公民館活動の総括だけでなく、地域や生活の中にある課題を見つけ、社会教育、生涯学習とどう結びつけていけばよいのかなどを考えます。

参加者は、本館、地区館の公民館関係者はもちろん、教育委員、社会教育委員、PTAや育成会、体育協会や文化協会、社会教育関係団体、その他各種団体のみなさんをはじめ、80人以上の方々が集まりました。

地域の課題として、公民館活動だけでなく、地域活動への住民の参加が減っているとの声が多くなっています。そこで、現在の「地域」をどう捉え、どうすれば人々に出てきてもらえるのか、公民館にできることは何かを、それぞれの立場から考えました。

えみりあが楽しい場所、学習の場所、笑顔あふれる場所となり、願いがかなえられる公民館活動となるよう参加者で意見を出し合いました。



団体ごとの活動や思いを発表

事例発表

えみりあをはじめ、町内の社会教育施設（体育館やグラウンドなど）を利用して活動されているみなさんから、どのような活動をされているのか発表してもらい、これからの公民館活動のヒントを得ました。

【事例発表団体】

- ・ ノンタンの会
- ・ 自分の本を作る会
- ・ 松川スポーツ
- ・ クライミングクラブ
- ・ 松川少年少女ダンス教室
- ・ 松川少年野球クラブ

- ・ 松川酒害者回復クラブ
 - ・ 英会話教室
 - ・ 昭和史を学ぶ会
 - ・ 上片桐自然友の会
 - ・ 青年学級水質検査班
- 今回は10団体の発表でしたが、これだけでも活動は多岐にわたっていることがわかります。

このほかにも町内には文化協会、体育協会、少年少女スポーツクラブ連盟、社会教育関係団体などに所属する団体が120以上あります。

そして、中央公民館、各地区公民館それぞれの活動、行事も含めれば、住民の活動の

えみりあで笑顔

～ Let's enjoy with

場はとも多いように感じます。

しかし、それでも住民の地域活動への参加が減っているということは大きな課題です。

ワールドカフェ

事例発表をふまえて、10人ほどの小さなグループに分かれて話をするワールドカフェを行いました。

ワールドカフェとはお茶を飲みながら気楽に話をするというものです。グループごとにテーマを設け参加者同士で課題を出し合い、夢や希望を形にするための意見を出し合いました。

【ワールドカフェのテーマ】

- ・ 夢を語り合いたい
- ・ 親子でやっていく
- ・ 地域で歩いていく活動
- ・ コミュニケーションとは なんだらう

そして、各テーマから次のような意見が出されました。これらの意見が新たな公民館活動につながられていきます。

テーマ①

夢を語り合いたい

公民館を中心としたイベントを開き、若い人たちに出きてもらいたい。

現在各地域でお祭り等があるが、昔あったような町全体で行うお祭りやイベントがあつたらいい。

松川町の地域性により地域が川に沿って分かれているが、もっと交流を増やし町全体のイベントが出来れば若者が出てくるのでは。子育てのために帰ってきたい町になるよう、若者たち、

これからの人たちに夢をたくしたい。

東小を活用して周りにマウンテンバイクのコースを作るなど、スポーツ施設として活用すれば、町外からも集客も増え町も将来的に盛んになるのではないか。

テーマ②

親子でつくる公民館活動

「えみりあ」の使い方が分からない。

料理教室等を行っているようだが、活動等知らない。社会教育関係団体自体を住

民が知らない。

社会教育関係団体をどう周知していくのがテーマや課題になるのでは。

社会教育関係団体の名前が固いので、「えみりあクラブ」というのはどうか。

各部の公民館活動をもっと知りたい。

公民館でやっている活動が義務的になっているのではないか。本来は自発性を支援していくものではないのか。

子育てのお母さんが時間にとらわれずに集まれる場所。児童館などで公民館の支援をしてみてもどうか。

各地区で開いているイベントの周知方法が課題。

今や両親忙しい家庭が多いので、それを踏まえ公民館のあり方を考えてほしい。

「えみりあ」をどう使うかを住民に知らせることが今後の課題となるのでは。

テーマ③

地域で歩いていく活動

情報を受け取る側も発信する側もお互い情報不足ではないか。

チャンネルユーや町の広報



個々の思いを出しあったワールドカフェ

等を使ってクラブの紹介、行事への参加をもっと発信して欲しい。

- ・ イベントの開催が土日が多く、家族で出かけるなどにより参加者が減少している。
- ・ 色々な団体又は組織が共同でイベントを開催してはどうか。
- ・ 地域にいる知識人を発掘し、日頃から世代を超えた活動をしては。
- ・ 活動が終わった後でも交流が残り、それをもとに新しい団体となっている事例もある。
- ・ 情報が町民全員に伝わらないのが大きな課題ではないか。

テーマ④
コミュニケーションとはなんだろう

- ・ コミュニケーションについて、「飲むこと」と「あいさつ」という視点から話が広がった。
- ・ 子どもが元気にあいさつをしてくれる反面、頭を下げずに挨拶している等、あいさつについてもいろいろな意見が。
- ・ 大人に関しては、車ですれ

- ・ 違う時に頭を下げる等をする人が減ってきているように感じる。
- ・ チャンネルユーの発信もコミュニケーションではないのかということから大きな期待をしている。
- ・ 昔はスマホ、インターネット等が無かったので、大人子供関係なく会って話をしていた。
- ・ 今はインターネット、スマホ等があり情報を得る機会が多く、年齢を超えた繋がりが減ってきている。
- ・ コミュニケーションのツールが増えたことで、恥ずかしい、めんどくさいと思う人が楽な方へ逃げているのでは。
- ・ 今後スマホ、インターネットと、会って話すという両方のコミュニケーションのバランスが大切。
- ・ あいさつ運動に関して、今後も継続していつてほしい。恥ずかしい、めんどくさいと思う人が話せる場を作ることが課題である。
- ・ チャンネルユーを使い活動を発信することで、昔みないなたての繋がりがもできてくるのでは。



吉川佳弘さん
(中央公民館)



宮脇俊典さん
(中央公民館)



矢澤 登さん
(中央公民館)

平成28年度
**公民館
功労者表彰**

2月26日(日)に開催された「第54回公民館研究集会」において、中央公民館、各地区公民館の活動にご尽力された13人が表彰されました。



日置孝史さん
(上新井地区公民館)



深津 純さん
(上新井地区公民館)



唐澤敏行さん
(生田地区協議会)



平澤智人さん
(大島地区協議会)



伊藤卓哉さん
(中央公民館)



松下真司さん
(上大島地区公民館)



榎本謙二さん
(上大島地区公民館)



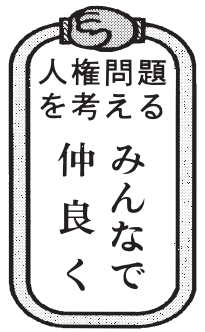
平島高士さん
(名子地区公民館)



木下雅之さん
(名子地区公民館)



荻原浩司さん
(名子地区公民館)



「ありがとう」

中央小 5年1組 富永 暖

「ありがとう」、私はこの言葉が好きです。言われると、とてもうれしい気持ちになるからです。

「消しゴム拾ってくれてありがとう。」

「一緒に遊んでくれてありがとう。」

など、「ありがとう」は、とても良い言葉です。私も、友達に「ありがとう」と言う時があります。

私がえんぴつを落とすと、いつも友達が拾ってくれます。その時私は、

「ありがとう」と言います。

ほかに、休み時間になると、友達が遊びにさそって来て、

「ありがとう」と言います。

この時私は、「ありがとう」という言葉を言って、初めての発見がありました。それは、ありがとうは、言われる側は

毎月第3日曜日は 家族ふれあう 「家庭の日」



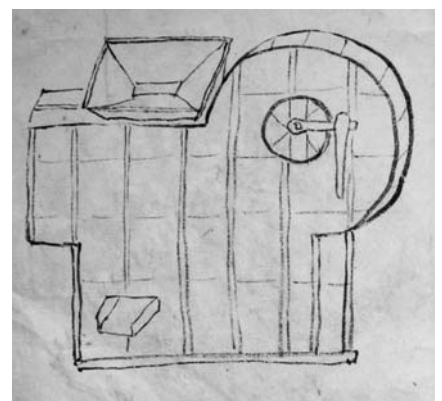
もちろん、言う側も良い気持ちになる、という事です。「ありがとう」という言葉は、心のつながりを広げると思っています。なので、これからも「ありがとう」という言葉を使って、色々な人に感謝の気持ちを伝えたいです。

松川町今昔

資料館だより 第10回 「昔の農具と農具絵図」

松川町資料館で預かっている上新井村古文書の中に、他ではあまり見かけない昔の農具を描いた農具図の帳面があります。役所へ提出した書類の控え綴に入っています。この書類は明治5年(1872)3月に、上新井村の庄屋北原太郎左衛門らと古町村の庄屋松尾伊右衛門らが、県の求めに応じて筑摩県飯田出張所へ提出したものの控えです。

表紙には『農具絵図』と書かれていて、24種類の農具が描かれています。それは、鋤・鎌・さつま鋤・鋤簾・靄はし・こぼし・まんが・なた・よき・鋸・み・もみうす・挽木・とをみ・むしろ・ねこ・万石・天びん・半桶・ま

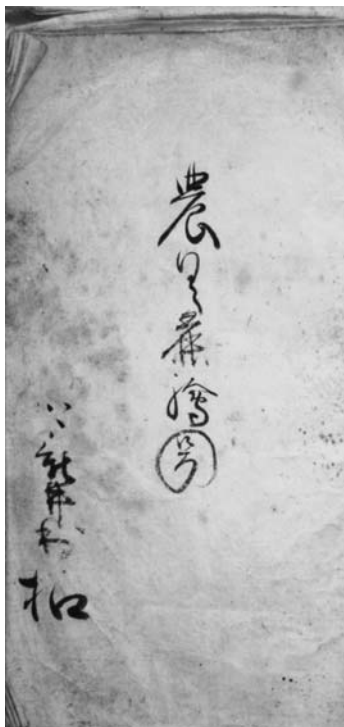


き手桶・沓斗升・沓合升・三升升・俵です。

名前を聞いただけではどんなものかわからないものもあると思います。

ここに絵図で示された農具類は、江戸時代の後半から明治期、あるいは戦前まで使われていたものです。中には戦後も農家にあり使用されていたり、まだ倉庫の隅におかれていたりするものもあるかと思えます。

これらの農具の中には、現



こうした農具の絵が残っているところはあまりありません。大切にしたい農具図です。



松川町資料館

伊坪 達郎

在松川町資料館に展示されていたり、保管されていたりするものもあります。先日松川中央小学校の三年生の皆さんが見学に来て、しっかりと見ていってくれました。昔の人たちがどんな道具を使っていたのか、自分の生活と比べてどうだったのか、いろいろ考えていました。また見学に来たデイサービスセンターの年配の皆さんは、なつかしそうにご覧になっていました。

目覚めよ！スポーツの虫

第44回 松川町地区対抗弓道大会

2月11日(土)に松川町弓道場で、第44回松川町地区対抗弓道大会が行われました。結果は次のとおり。

団体戦

- 優勝 上新井チーム
- 福澤 隆夫・岩村 拓生
- 大蔵 壽春
- 準優勝 名子チーム
- 北原 修・野牧 初彦
- 笠原 武明
- 第3位 上片桐チーム
- 森岡眞理子・南島 健

個人戦

- 優勝 福澤 隆夫
- 準優勝 岩村 拓生
- 第3位 北原 修
- 第4位 森岡眞理子
- 第5位 大蔵 壽春
- 射詰賞 大蔵 壽春

第43回 松川町豊饒弓道大会

3月4日(土)に松川町弓道場で、第43回松川町豊饒弓道大会が行われました。結果は次のとおり。

団体戦

- 優勝 今井 勉(飯島町)・笠原武明(松川町)
- 鈴木清重(駒ヶ根市)
- 準優勝 伊藤久人(松川町)・菅沼昭彦(豊丘村)
- 第3位 木村匡房(飯田市)・南島 健(松川町)
- 唐沢 徳(豊丘村)

個人戦

- 優勝 鈴木 清重(駒ヶ根市)
- 準優勝 菅沼 昭彦(豊丘村)
- 第3位 山口 澄男(駒ヶ根市)
- 第4位 唐沢 徳(豊丘村)
- 第5位 大蔵 壽春(松川町)
- 射詰賞 笠原 武明(松川町)

情報

松川町中央公民館よりお知らせ

左記の男性料理教室を立ち上げたい方がいます。松川町中央公民館も「自主企画講座」の一環として応援しています。一緒に活動したい方はお知らせください。

また、この他にも「学習をしたい」「活動をしたい」という思いをお持ちの方がいらっしゃいましたら、お気軽に松川町中央公民館にご相談ください。力になります!!

〈自主企画講座とは〉

町民が主体となって企画・立案する講座や講演会です。

ご飯の楽しみは無限大！男性料理教室

【男！メシ】 会員募集！

自分で作って自分で食べる。ときには仲間と食べる。

仲間と一緒に料理のレポーターを増やしませんか？

とにかく1回、やってみよう!!

第1回

- 日程 2017年4月27日(木) 19:00~20:30
- 場所 中央公民館えみりあ 調理室
- 持ち物 エプロン、タッパー
- 会費 1,500円(材料費)
- 申込 締切 3月31日
- 中央公民館 TEL: 36-2622



中央公民館えみりあ ギャラリー展示 【万葉から時空をこえて】

出展：花あかりの会
作品：短歌 8首
期間：2/29 ~ 3/29

日常の風景と心情の一瞬を詠んだ短歌を展示してあります。中央公民館へお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。次回... 4/1~ フォトグラフ光彩

明橋大二先生の 子育てハッピーアドバイス

子が宝なら母もまた宝

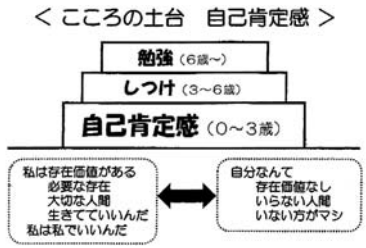
平成28年度 まつかわ大学第11期 第4講座 2月25日



何となくいつもと違う感じのまつかわ大学...? それは、こども達の声が聞こえること。

松川中学校吹奏楽部の演奏に混じって楽しそうな声があちらこちらから耳に入ってきて、思わず笑顔に。子育て中のお母さん達に大人気の明橋先生の講演会ならではの光景です。

私の周りには、こどもとお母さん、お祖母さんというように、三代で来ている方達もみられました。



上の図の一番下、自己肯定感というあまり聞いたことの無い言葉、自分が必要とされる大切な存在、自分分は自分でいいんだ、という意識を育てるのが重要だそう。

のために、良い面・悪い面すべて受け入れ、いっぱい甘えさせる。躰や勉強はその後で良いそうです。

「三つ子の魂百まで」だから3歳までは一緒に過ごすように、と母に言われたことを思い出しました。

毎日の子育てに頑張っているお母さん。「ありがとう」の一言で張り詰めた気持ちも和やかになるでしょう。

母も子も光り輝く宝物。



お話を伺った神田由美子さん

3人の男の子の育児におられる毎日、明橋先生の講演会をとても楽しみにしていました。先生の本は何冊か持っていて、心の拠り所となっています。

今回も、日めくりカレンダーを買ったら、毎日のように、こどもたちが、どんなことが書いてあるの？ と聞いてくるんですよ。

そのなかの一文が、私の気持ちに安らぎを与えてくれたので紹介します。

つついキレてしまふのは、それだけ子育てがんばってるからだよ。



俳句

矢沢 さち子 (東浦)

冬ぬくし母の湯浴みを昼間とす
付き添いて母に一口どんど餅
節分の鬼が来ている太鼓の音
ふきのとう苦味を盛りて朝の膳
春一番固き身体ゆり起す



ふんわり

北小1年

たき本 あみか

こながふわふわわわわわわわ、すこかった。
のぼすときも、ながくできてうれしかった。
きるのも、たのしかった。
そばがおいしかった。
しるもおいしかったので、ほっぺが
おちちやうくらいでした。
ぜんくんやしとくとつくつたので、
そばもおいしくなって、うれしかったです。

マラソン大かい

北小1年

みつざわ せおん



スタートまえ、おかあさんがきた。「がんばれ。」「がんばれ。」って、いった。
おとうさんもきた。ほくは
おとうさんがすきだから、うれしかった。
スタートした。ほくは、はしつた。
先生とはしらなかつた。ひとりではしつた。
はい。はい。
ゴールした。
おかあさんとおとうさんがいた。ふたりとも
わらつたかおしてた。ほくは、はいんだよ。



まちの石仏④ 「御嶽三社大神、富士浅間大神」 (七椏神社付近 南)

山などの自然環境を崇拜し、畏敬の念から作られた石碑



長野県信濃美術館 移動展の感想

2月4日(土)~12日(日)

中央公民館「えみりあ」の竣工を記念して、長野県信濃美術館の移動展が、えみりあホールにて開催されました。
信濃美術館の移動展が松川町で開催されたのは27年ぶりであり、開催期間中は町内外から730人という多くの方にご来場いただきました。その際に感想交換ノートに寄せられた感想をご紹介します。

- * 菊池契月さんの「早苗」という絵なんでしょうか、農家の女性とは思えない……労働とは縁のなさそうな女性ですが……
(2/7 松川町の住人)
- * 菱田春草や菊池契月など信州のうまい絵があつてとくに菱田春草の絵は、すごかった。
(小学生)
- * 白い馬のえすごく良い
(小学生)
- * やばし (小学生)
- * 白い馬がていねいにかいてあった (小学生)
- * 油絵が上手だった (小学生)
- * 油絵がとても上手だった (小学生)
- * 本物がやっぱりスゴイ!!近くで見ることができるとしてもイイですネ。なかなか東京とかまで行けないし長野市も遠いです……
- * めったに見られぬ移動展ということで多くの方々が目に來られた。そして時間をかけてじっくり作品を觀賞されていく姿が印象的であった。特に春草や東山魁夷の作品には高い関心があることが伺えた。こうした機会は町民の芸術意識の高揚にもつながるのではないかと(管理当番の1員)

感想交換ノート

- ☆ご自由に感想をお書きください。
- ☆一部感想を館報まつかわにてご紹介させていただく場合がございます。
- ☆ご了承ください。

又、どこかで作品に出会えるとうれしいです。
* 絵画に親しむ機会が、まったく無かったのですが、身近に本物を觀賞することができて感動しました。

草

先日災害備蓄用の非常食を更新のための放出ということでした。図らずもこの非常食と3月11日が近付いたことによる報道で震災を含む災害全般に対する危機意識というものが薄くなっているなあと実感してしまいました。

震災直後はいろいろと持ちだす物や、避難場所なども考えたりもしました。しかし「のど元過ぎれば熱さを忘れる」の言葉どおりに普段の生活を送る中で特に非常持ち出し袋等を用意するわけでも、家族で避難場所や災害用伝言ダイヤルなどといった連絡手段の確認などをするわけでもなく日々を過ごしてしまっています。

この3月11日で東日本大震災から6年がたちます。これだけの月日が経つても被災地では復興道半ばだということを忘れず、平穏な生活を送れることに感謝しながら今一度災害に対する備えを確認したいと思いました。

大久保康司

公民館報
「まつかわ」
第 641 号
平成29年3月15日

発行所 松川町公民館 誠
責任者 小 沢 誠
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)